

団体名	きらぼし アート展実行委員会	代表者 阪本 文雄	記載者 小林 洋明
所在地(市区町村名のみ)	岡山市北区柳町		
活動目的	岡山県内の障害者たちの芸術作品を紹介。作家の社会参加を進め、支援の輪を広げる。		
団体の紹介	<p>2017年1月～5月、山陽新聞社会事業団が岡山県で初の県全域から作品を募集する「きらぼし アート展」を実施。障害児・者の芸術振興に取り組む岡山県、岡山県教育委員会の共催を得て、岡山県障害福祉課、岡山県教育委員会 特別支援教育課らをメンバーに実行委員会が発足した。2018年度の第2回「きらぼし アート展」は実行委員会が主体となり開催。実行委には、新たに岡山市、岡山県文化連盟、岡山県知的障害者福祉協会などが加わった。</p>		
助成を受けての活動内容	<p>岡山県内の障害者たちの芸術作品を紹介する全県公募展「第2回きらぼし アート展」は「輝く星を探して 岡山の作家たち」をテーマに、2018年9月29日から10月5日まで旧内山下小学校(岡山市北区丸の内)で開かれた。岡山県の行政、福祉、文化団体など官民あげた「オール岡山体制」により障害者の芸術文化活動を展開しようと、岡山県、県教委、県文化連盟、岡山市、県知的障害者福祉協会、旭川荘、山陽新聞社会事業団などをメンバーとする実行委員会が実施主体となった。</p> <p>7月23日～9月4日までの募集期間に県内の個人や障害者施設、支援学校などから294点の応募があり、1次審査の結果選ばれた66点(絵画44、造形22)が展示された。作品と同時に募集した来場者プレゼントの「缶バッジ」デザインには184点の応募があり、大小の2サイズ、計5点が選ばれた。岡山城や県立美術館などが集まる歴史文化ゾーンの一部にある旧小学校舎という会場の立地と雰囲気の良いが奏功し、福祉関係者以外の美術ファンからも来場。来場者がふせんに感想を書き、掲示板に貼り付ける「星のつぶやきコーナー」は、最終日には掲示板をはみだし会場案内図まで埋め尽くした。</p> <p>会期中、障害のあるアート作家が会場に設置した布や壁に直接絵を描く「ライブペイント」を開催。新潟、広島、鳥取で障害のあるアート作家の発掘や活動支援に先進的に取り組む団体、施設のリーダーを招いたセミナーも開かれ、障害者アート支援に意欲を燃やす県内の福祉施設職員や特別支援学校教諭らが聴講した。</p> <p>入賞作品を備前焼の重要無形文化財保持者(人間国宝)伊勢崎淳氏ら県内外の専門家5人が審査。最優秀賞となる「きらぼし大賞」に岡山東支援学校高等部2年岡本大貴さんの作品「馬」を選んだほか、造形賞2名、絵画賞1名、新人賞1名が選ばれた。缶バッジデザイン採用者には「缶バッジ賞」が贈られ、岡山市北区柳町の山陽新聞社で10月20日開かれた表彰式で表彰状と記念品が手渡された。表彰式終了後、2018年末には展示作品すべてを収録した図録(A4、70ページ)を制作。今後県内外の障害者アート関係者に岡山の作家を紹介するツールとして活用していく。</p> <p>また、きらぼし アート展イベントとして8月12日、フランス国立現代芸術センターのパトリック・ギゲール館長、大森雅夫岡山市長、現代アート展「岡山芸術交流」の総合プロデューサー石川康晴・ストライプインターナショナル社長が意見交換するシンポジウム「美術館を核にした文化の町づくり」を開催した。</p>		
			
助成を受けての成果	<p>助成を受け「第2回きらぼし アート展」図録を質、量とも充実させることができた。きらぼし アート展を通じ、岡山県内で独自に創作活動をしていた障害のある作家の才能が見いだされてきている。図録刊行により、作品は県内外の障害者アート支援者らの目に触れ、2018年には岡山からフランス・パリのアール・ブリュット作品展へ招待される作家も現れた。今回制作した第2回きらぼし アート展図録も県内外の福祉・障害者アート関係者の目に触れることで、作品展示機会の一層の拡大や岡山の障害者アート振興の新たな展開が期待される。</p>		
今後の活動の課題点	<p>一方、2018年「第2回きらぼし アート展」と併せて開かれた創作支援セミナーや、同展実行委メンバーによる県外先進地(新潟、鳥取、広島など)視察により、岡山の障害者アート支援の遅れが浮き彫りとなった。他県にはアート作品の常設展示施設や、創作展示や活用のための相談窓口組織が設置されている例もあり、作品を生かした商品化、店舗への作品貸出など経済活動も活発になっている。きらぼし アート展入賞者の支援者や保護者からは、就労や進学など作家の今後の生活と創作との両立に悩む声も聞かれた。作品展示の機会もまだ十分といえない。岡山では作家の発掘継続に加え、作家の生活も視野に入れた創作支援、著作権など権利擁護、作品の保管や展示に関する相談窓口の設置や、県内の障害者アート支援組織・支援者のネットワークづくり、作品がいつでも見られる常設展示の場の整備が急がれる。</p>		
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)	<p>きらぼしアート展実行委員会(山陽新聞社会事業団内 086-803-8071)</p>		

このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。

A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)

写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。